

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2571800024
法人名	社会福祉法人 湖東会
事業所名	グループホーム ハートフル
訪問調査日	平成 19年 8月 29日
評価確定日	平成 19年 9月 10日
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2571800024
法人名	社会福祉法人 湖東会
事業所名	グループホームハートフル
所在地 (電話番号)	滋賀県犬上郡多賀町中川原675番地の2 (電話)0749-48-2610
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク
所在地	東京都千代田区九段北4-1-9市ヶ谷MSビル4階
訪問調査日	平成19年8月29日

【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年4月13日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	平屋建て 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	180 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	6 名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.7 歳	最低 75 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大辻医院土田診療所・豊郷病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの理念を「その人らしく暮らしていけるように支援していきましょう」というわかりやすいものに設定し、日々唱和・掲示することで十分職員に浸透している。実際、各職員の利用者への声かけや支援は、利用者の思いや意向を尊重して行われている。また、利用者の居室に馴染みのダンスを持ち込んでもらったり、家族とのスナップ写真を飾る等して以前の生活との連続性を保っている。さらに、ホームの壁に行事等のスナップ写真を多数掲示したり、玄関前に花を飾る等の取り組みにより、利用者が楽しく和みながらホームで暮らせるように整えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①ホーム独自の理念設定は実現され、職員間で共有されている。②玄関周りを家庭的な雰囲気にする改善課題は、プランターやグリーンカーテンを造って緑化する取り組みが行われた。③アセスメントの充実については、具体的な手法の確立が引き続き課題である。④苦情解決制度の流れを明確に利用者に伝える改善課題については、玄関に明示する等の取り組みが期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>①自己評価の取り組みについては、ホームの今年度事業計画書で実施時期や手法について明確にした他、月1回のグループホームCW会議で計画を立てて全職員で日常業務を見直しつつ行われた。さらに、自己評価の勉強会も実施された。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者と家族、民生委員、行政の職員から成る運営推進会議が2ヶ月に1回の頻度で実施されており、2ヶ月間の事業実施報告や利用者の生活状況の確認、安全対策、行事報告等が行われている。事業実施報告の内容はかなり詳細に報告されているため、運営推進会議のメンバーに十分情報伝達できている。なお、運営推進会議のテーマについてという議題を毎回提示することで、委員からの提案があがりやすいように工夫されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との連携については、宿泊旅行を実施する等密接に行っているが、さらに公式なグループホーム便りを発行する等して一層の連携を図るよう取り組んできている。家族からの要望や苦情は口頭で寄せられる場合がほとんどであり、全家族との信頼関係は高い状況である。ただし、苦情解決制度のしくみを利用者や家族にわかりやすく説明するために、玄関先などに明示することが求められる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人の広報誌「は〜とふる通信」とホームの「は〜とふるだより」により地域にホームの様子や行事の状況等を地域に伝えている。ホームが併設施設内の奥まった場所に存在するため、日常的に近所づきあいができる環境ではないが、夏祭りや運動会、ふるさと祭り等で地域住民と交流する機会を積極的に設けながら運営されている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく暮らしていけるように支援していきましょう」というわかりやすい理念を設定し、利用者1人ひとりの生活習慣や個性を尊重した支援を目指していくことが明確になった。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を事務所に掲示したり、日々唱和することで全職員に浸透を図っている。会議の場でも判断に迷う事例がある場合などに理念を掘り下げて考えることでホームの支援体制をゆるぎのないものになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが併設施設内の奥まった場所に位置するため、日常的に近所づきあいができる環境ではないが、夏祭りや運動会、ふるさと祭り等で地域住民と交流する機会を積極的に設けつつ運営されている。	○	ホームの広報誌「は～とふるだより」の定期刊行を実現し、かつ、内容の充実や配布先の拡大を徐々に進めていくことで、さらに交流の機会が増えるものと思われる。なお、利用者の出身地域での交流の具体化が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年度の事業計画書で外部評価の取り組みを明記して実施方法等を具体的に決めて実施した。昨年度の改善課題の達成度も高く、評価を実践につなげる意欲の高いホームといえる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月間の事業実施報告や利用者の生活状況の確認、安全対策、行事報告等が行われている。事業実施報告の内容はかなり詳細に報告されている。なお、運営推進会議のテーマについてという議題を毎回提示することで、委員からの提案があたりやすいように工夫されている。	○	ホームの事業計画書が作成されているが、その内容をさらに具体的にして運営推進会議で提示することで、さらに細やかな議論がなされていくものと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の新規職員の研修場所としてホームを提供して理解を深めてもらう機会を作ったり、行政担当者との関係作りに努める等、取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	各家族が少なくとも月1回以上は面会に訪れるホームであり、利用者の状況やホームの運営体制の変化については直接伝達されている。	○	「は〜とふるだより」が今後2ヶ月に一度刊行されていく予定であるので、その刊行に併せて家族に利用者の状況を報告する等工夫することが有効である。また、家族会の設置が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との連携については、宿泊旅行を実施する等密接に行ってきたが、さらに公式なグループホーム便りを発行して一層の連携を図るように取り組んできている。家族からの要望や苦情は口頭で寄せられる場合がほとんどであり、全家族との信頼関係は高い状況にある。	○	苦情解決制度は整備されており、意見箱を設置する等取り組まれているが、そのしくみや苦情受付担当者等を利用者や家族に常に説明するために、玄関先などに明示することが求められる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度はホーム長が退職したが、ホーム内で送別会を行って利用者への理解を深めたり、ホームのことをよく知る同一法人の職員を新ホーム長を迎えるにあたり、利用者には十分知ってもらう機会を持ってから就任する等の配慮がなされた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り外部研修に職員を派遣したり、資格取得を奨励するなどして職員の能力向上を図っている。研修結果は参加した職員により会議で報告されることで全職員で共有している。また、ホーム長がスーパーパイザーとして日常的にOJTを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一地域のグループホーム部会に参加しており、交換研修に参加して職員の相互交流と人材育成がなされている。	○	地域のグループホームネットワークだけでなく、県内のグループホームネットワークとの交流の機会をもつことで、職員の能力向上や必要な情報収集がなされていくものと思われる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今年度は新たに1名の入居があったが、家族とともに何度か事前にホームを訪問してもらい、十分な理解とホームの雰囲気に慣れてもらったうえで受け入れがなされた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側とされる側という意識で利用者に関わるのではなく、生活を共にするという雰囲気ですべて支援にあたっている状況である。味噌作りやぬか漬け作り、布ぞうり作り等を職員が利用者に教えてもらう場面もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要介護度の低い利用者が多いホームであり、日々の声かけや様子を把握しつつ利用者の思いや意向を確認している。センター方式により家族からの情報を入手して支援につなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、日常的なかかわりのなかで本人や家族から直接意向を確認し、反映させている。	○	家族からの意向は、面会の際の要望や職員が気づいたことを日誌に記録して把握しているが、介護計画策定の際に改めて確認する機会を持つ等、家族の意向が介護計画に反映されるしくみづくりが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況の変化については、日々の記録により蓄積されており、その記録を確認したうえで介護計画の見直しが行われている。	○	介護計画の目標の達成状況や利用者の状況の変化を把握するためにモニタリング記録表の作成に着手しているので、その導入が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの協力医院には3名の利用者が受診している。さらにそれ以外には、ホームの車を活用して送迎を実施したり、柔軟な支援を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視して、かかりつけ医を引き続き継続している。通院には極力家族の協力を得ているが、不可能なときには職員が代行している。	○	家族からの要望では家族が都合が悪いときの職員代行が求められている。ホーム側の意向と家族の考えに行き違いが生じている事もあり、相互の話し合いで納得性を高めることが望まれる。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	毎朝、血圧と体温、脈のバイタルチェックを実施し、利用者の健康管理に努めている。同一法人の併設施設である特長を活かして、家族や利用者の要望にそった対応ができるように心がけている。	○	今後、可能性のある利用者の重度化に向け、早い時期での家族や利用者本人との支援方法についての意思の確認をとることが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法に対する職員の意識を高め、利用者一人ひとりの尊厳を尊重しつつ話しかけている。プライバシーへの配慮もなされており、居室の扉の窓にかかる暖簾の長さにも工夫がある。	○	個人情報の使用に対する同意書を得て秘密保持の徹底を図っているが、ハートフル通信やホームだよりに掲載する写真に対しても同意書に盛り込むことが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを大切にし、希望や要望に対して一人ひとりの要望にそった対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の要望を取り入れ、ホームの畑で収穫した野菜を生かした調理を行っている。利用者も調理や片付けに参加しており、家族的な支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそった時間での入浴を実施しており、数多くの入浴剤を使用することで楽しみながらの入浴に取り組んでいる。ホームの浴室で不安な利用者には隣接のデイサービス浴室で中間浴を行っており、利用者の安心感につながっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の新聞取りや毎食の下膳、畑で収穫した野菜で作る漬物や、昔体験した布ぞうり作り等、利用者それぞれの知識や生活歴を活かし、利用者の意欲を引き出している。さらに職員による「ありがとう」の感謝の言葉がけにより利用者の前向きな生き方を増進している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望にそった場所への外出や散歩、さらに日常の食材の買出し等にはホームの車で職員とともに出かけている。また、外部の美容院や地域のイベント等にも積極的に参加し、外の空気に触れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、徘徊等の不安がある利用者が少ない状況であり、利用者の状況把握は他の利用者にわからないように自然体で確認している。その結果、利用者の自由な暮らしの支援ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時における職員緊急連絡網を用意し、職員1人ひとりに持たせている。毎月の避難訓練は、消防署等の協力を得るなどして実施されている。今回ホーム独自で夜勤帯での出火を想定した訓練が実施された。	○	食糧備蓄は法人全体で用意されており、かつ、同一法人内に調理委託業者が入る際に災害時の備蓄に対する契約が予定されているが、ホーム独自でも一定量の用意は欲しいところである。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食、副食、水分摂取量を毎食チェック表に記録し確認しており、不足している利用者には目標摂取できるように支援している。	○	利用者の希望に応じた食事内容となっているため、栄養に対するチェックがなされていない。特に塩分には注意する等、1日全体の食事に対するの振り返りが必要と思われる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや台所は家庭的な雰囲気が漂い、採光や風通しのよい造りになっている。テーブルやイスも、自然のものを使い、一人ひとりの好みの柄で座布団を作って使用している。利用者が楽しんでいる様子を写真で廊下の壁に掲げ、この住人であることを意識づけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、家庭で使用していたタンスや鏡台等を持ってきてもらい、環境の変化が少ないようにしている。さらに畳を敷く等ゆっくりくつろげるように工夫している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 湖東会 犬上ハートフルセンター
(ユニット名)	グループホーム ハートフル
所在地 (県・市町村名)	滋賀県犬上郡多賀町中川原 675番地の2
記入者名 (管理者)	浅居 絹代
記入日	平成 19年 8月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らしていけるように生活できるよう、支えていけるケアを目指す理念を柱に置いた。	一人一人の意思を尊重し、ここに来てよかったと思えるような生活が送れるように支援する。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、唱和することで理念の共有を行い、ケアの実施につなげている。	ミーティングでは、理念を掘り下げて職員間で話し合い、具体的なケアについて話し合い、意見の統一を図っている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には訪問時やグループホームからの連絡時にその都度取り組み事実を報告し、理解を得ている。また、地域のイベント等に参加したり、ハートフル通信等を配布し事業所としての実践内容を伝えるようにしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ハートフル通信以外にも、グループホーム独自の便りを発行し地域の中にもっと浸透していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地条件により隣近所の人との交流は少ないが、こちらから出向いて行く様になっている。	近隣地区へのグループホームだよりを配布する。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行なわれている行事に参加している。	夏祭り、運動会、ふるさと祭り等に参加している。今後も出身地域に個別で参加して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として実習生の受け入れ、ヘルパーの受け入れ、学生のボランティア事業の受け入れを積極的に行っている。	○	地域の老人会の集まりに積極的に参加したり、認知症の相談も気軽に相談していただける体制をとっていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。また、外部評価の結果を踏まえ、改善に取り組んでいる。		外部評価の結果により、計画的に改善に向けて具体的な案の検討や実践に取り組む努力をしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、取り組み内容を報告し、参加メンバーからの質問、意見、要望を受けその経過を話し合い、一つ一つ積み上げていくようにしている。		取り上げられた検討事項や懸案事項について、報告し取り組むようにしている。また、いい面ばかり出さずに今後の検討材料なども積極的に取り上げ、改善に向けて取り組んでいる。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	積極的に市町村へ出向き、あいさつ回りや関係作りに努めている。	○	新規職員の研修場所として提供し、グループホームの理解を深める。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者の生活、活動状況の連絡をしているので、折に触れ職員への説明を行なっている。	○	研修に参加したり、研修後の報告をミーティングにて発表している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修に参加し、虐待防止の知識を身につけている。		利用者に関しては、入浴や着替えの際にボディチェックや打撲からくる内出血等検証して虐待が見過ごされることがないように記録などに入力し、管理者や職員に周知徹底している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や起こりうるリスク等説明し、同意を得るようにしている。契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲に於いて説明している。</p>	<p>理念を実践していく上で十分な説明を行なう。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員が来られたとき、相談に乗っていただいている。利用者の立場に立った意見をいただき、運営の参考になっている。</p>	<p>2ヶ月に1度の運営推進会議時の前後に利用者とのコミュニケーションをとってもらい出された意見は運営推進会議の場に出したり、会議の場でも直接言って貰ったりしている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に広報やグループホームだよりを発行し、現在の状況を報告している。また、家族の来苑時には利用者の状況や心身の状況をきめ細かく報告している。金銭出納帳は年度末に家族に確認してもらい、サインをいただいている。</p>	<p>グループホームだよりの発行回数を増やしていき、家族との交流をより深める。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置。 運営推進会議に家族の代表者に出席していただき、何でも手伝ってもらえるような雰囲気作りに留意している。又、出された意見や要望はCW会議で話し合い、反映させている。</p>	<p>運営推進会議等で家族、利用者、委員で話し合っていた。今後は職員が席をはずすなど配慮していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、職員の要望や意見を自由に聞いていただけるようにしている。</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたりしている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の自由な暮らしと出来る限り支えられるよう起床時や就寝時、夜間等利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。また、その都度必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。</p>	<p>今後も状況に応じた柔軟な対策を出来るようにしていきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入る場合も利用者きちんと紹介し、利用者からホームのことを教えてもらうよう工夫をしている。</p>	<p>職員が変わるときは引継ぎの期間を充分取りスムーズに移行出来るよう配慮している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<input type="checkbox"/> 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には順番に参加したり、スーパーバイザーである上司の意見やアドバイスを受けている。	研修報告を毎月のCW会議で発表してもらい理解や知識を共有して行きたい。
20	<input type="checkbox"/> 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に加入し交換研修やグループホーム同士の交流を通して質の高いケアを目指している。	<input type="radio"/> 県内の同業者ネットワークに加入して行きたい。
21	<input type="checkbox"/> 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、気分転換ができる休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握したりするように努めている。	職員の親睦を図れるよう食事会を計画したり、普段からコミュニケーションを多くとるように心がけている。
22	<input type="checkbox"/> 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は頻繁に現場に来て利用者や過ごしたり、個別に職員の業務や悩みを把握している。また、職員が向上心を持って働けるよう職能評価を行なっている。	職員の日々の努力や実績を把握し、資格取得に支援している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<input type="checkbox"/> 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面談して生活状態を把握するようし、又家族やケアマネに心身の状況や本人の思いを聞き取り、少しでも本人が不安の無いように関係作りに努めている。	本人の状況を把握し、コミュニケーションを取り、思いや不安の軽減に取り組んでいる。
24	<input type="checkbox"/> 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのように対応していくのか事前に話をしている。	グループホームへ出来る限り来ていただき、信頼関係を築くようにしている。ノンバーバルコミュニケーションも含め家族のこれまでの経緯に共感し、精神的にも安心して利用していただけるよう取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が困っている状況を把握し、出来ることはすぐに実行している。家族の実情や要望を見極め、事業所として出来る限りの対応に努めている。		出来る限りの対応を行なっているが、地域密着型ということで地域包括センターやケアマネージャーとの連携を密にしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらっている。すぐに利用になった場合は、家族や本人との連絡を密にし安心感を持っていただけるようにしている。		地域密着型サービスなので、職員と家族、本人との馴染みの関係もあり生活環境を熟知した上で利用していただいている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から教えてもらうことが多く、セッティングの工夫や声かけに配慮している。		昔馴染みの味噌作りやぬか漬けを行い教えてもらっている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事ごとに参加してもらったり、来苑しやすいような雰囲気作りに努め、その都度利用者の様子を伝えている。		遠方のご家族には利用者の様子などお便りで伝えている。お誕生会など。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人の思いや状況を見極めながら外出、行事、家族旅行にお誘いしたりしながらよりよい関係の継続につなげている。		家族の声により家族旅行などは今後も計画し、継続して行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの馴染みの美容院を利用してもらっている。利用者には生活習慣を尊重している。		これまでに生活してきた地域や友人、知人等に会いに行ったり、お彼岸には先祖の墓参りに行っている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に食べながら多くの会話を持つようにしたり、役割分担等を通して利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。	○	孤立にならないように職員が意図的に関わっていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方にも利用者と一緒に遊びに行ったりグループホームへ遊びに来てもらっている。		他の施設へ移られた利用者を訪問している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などからその真意をさし測ったりそれとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方にはご家族にセンター方式に記入していただき、情報を取り入れているが足りないところは面会時に補足している。		声かけやコミュニケーションには気配りしながら行っている。なるべく話しづらいこともあるといけないので、個別に話したり、居室にて話に行ったりしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながらご家族や関係者(民生委員、地域振興局職員)から聞き取るようにしている。入所後も折に触れ聞き取るようにしている。		面会時などにゆっくと時間をとっていただけるように配慮している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活面、心理面を把握し、出来ることに注目をし、その人の全体の把握に努めている。	○	ケアプランを見直し、一人ひとりの生活を支えるアセスメントを作って行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。		家族の面会時に気づきや意見要望を反映した介護計画を作成する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した時には終了前であっても検討して、見直しを行っている。	○	普段の生活状況を記録に事細かく入力し、その情報を基に介護計画の変更を随時行って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記入し、職員間の情報共有を徹底している。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		何時でも全ての職員が確認できるようにしている。勤務開始前には記録を全て読み、理解し申し送り時間を義務づけている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎時必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		家族との連携や関わりを少しでも多く取り、現在の状況を把握しつつ今後も支援して行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人と地域とのさまざまな接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼び掛けている。		地域のかかわりのあるボランティアを少しでも継続して来て頂いたり、消防訓練をしながら消防署の職員と関わりを持ち馴染みの関係を作っている。また、移動図書を利用したり、地域の図書館へ出向いていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の図書館でのサロンに参加したり、理美容、近隣に温泉に行ったりしている。	○	地域のケアマネジャーとの連携を取って行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		生活保護者や権利擁護者については地域包括センターや湖東地域振興局との連携して、支援できるようにしている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能なときには、職員が代行している。利用者によっては訪問診療に来ていただいている。		今後も入所前からのかかりつけ医を引き続き継続していけるように支援することと、ご希望によっては事業所の協力医療者の紹介をさせていただくように支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>協力医院と契約をもち、いつでも気軽に相談ができるようにしている。</p>	○	<p>今後の入所される方については、継続した医師との関わりを継続していただき、また認知症について専門的な診断や治療を受けられるよう支援して行きたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>地域課職員の看護師にいつでも相談できる体制を取っている。指導に基づき受診したり健康管理に努めている。</p>		<p>日勤帯については常時看護師に相談したり出来る体制の確保をしているが、夜間帯については責任者に24時間連絡体制を整えている。緊急な場合は、夜間帯でも出てきて判断を下せるようにしている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。</p>		<p>介護支援専門員が医療機関との連携を取り、日々の生活状況を詳細に渡り情報、連携を取っている。また、安心して退院までの生活が送れるようメンタルケアを心がけている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>状態の変化に合わせて家族の思いや本人の思いを聞いてできる限り支援していくようにしている。現在入所されている方が重度になっても施設の併用の強みを活かして努力するように職員が同じ意思で共有するようにしている。</p>	○	<p>事業所の運営方針や設備上の問題を勘案しつつ、重要事項説明書にてご家族と支援方法を話し合っ行って行きたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。</p>	○	<p>本人の気持ちを大切にしつつ、家族との話し合い利用者が安心して終末期を迎えられるよう取り組んで行きたい。入所時に事業所と家族の話し合いでどこまで出来るのか納得していただく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>他事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランや支援状況等を手渡すと共に、情報交換を行ない、馴染みの職員が機会を作って訪問などし、リロケーションダメージを最小限に食い止めるよう努力している。</p>		<p>これからも他事業所との連携や交換研修を含めて、暮らしの継続性が失われないように努力していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>勉強会やミーティング時に全ての職員が個人情報保護法の理解に努め、意識向上を図り秘密保持、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように徹底を図っている。</p>		<p>日々の関わりの中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を勉強会やミーティングで行っている。特に言葉かけには高齢者の尊厳を常に念頭においている。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p> <p>職員側で決めた事を押し付けるような事をせず、複数の選択枝を提案して一人ひとりの利用者が自分で決める自己決定の場面を作っている。</p>		<p>利用者の希望、関心、嗜好を見極めそれを基に日常の中で本人が選びやすい場面づくりをしている。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>基本的な一日の流れは持っているが、一人ひとりの体調、気持ちに配慮しながら、個別性のある支援を行っている。</p>		<p>買い物や散歩等一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。利用者に希望を聞き個別性支援を行っている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>個々の生活習慣に合わせ支援し、また行事等日頃からも化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>本人の馴染みのある理美容院で希望のカットをしてもらっている。また、訪問理美容も利用している。地域の馴染みの美容室にも来てもらっている。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>食事の献立等、利用者の方に希望を聞き相談しながら決めるようにしている。調理、盛り付け、片付け等利用者とともに楽しく食事をしている。また、昔によく食べた料理を聞き、献立に取り組んでいる。</p>		<p>職員と利用者が同じテーブルを囲み、楽しく食事をしている。グループホームで採れた野菜などの食材を使って調理し、大切な活動のひとつにしている。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>職員は本人の嗜好物を理解し、意向を大切にしている。嫌いな食材には代替を作ったり、手作りのおやつを工夫している。</p>		<p>利用者と一緒に食べたいお菓子等を一緒に買いに行っている。また、買い物に行きたくない利用者については欲しい物など聞いている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握して、支援している。		排泄の失敗をしてしまった場合、さり気なく本人が傷つかないように手早く対応している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴出来るようにしている。入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレイなどによって入浴の支援を行っている。		個人浴が身体状況で不安や肩脱臼の方については併設のデイサービスの利用の無い午後に中間浴を利用している。本人の希望を大事にしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない利用者については、原因を見極めて日中の活動を促進し、生活リズムを整えるように支援している。		寝付けない利用者には職員が添い寝やコミュニケーションをとり、精神を和らげるよう工夫している。また、一緒にお茶を飲んだりしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにして意欲を増進できるようにしている。「ありがとう」の言葉をわすれないこと。		毎日の新聞取り、季節の漬物、味噌作り、ぞうり作りの指導など利用者の経験や知恵を発揮してもらっている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり事業所が管理している。	○	外出時等、自分で買物をされている。(食べ物等)ご利用者が一人ひとりの力や希望に合わせて本人の金銭管理の支援に取り組んでいく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように日常的に散歩、買物あるいはドライブ等に出かけている。		食材の買物や外食、地域で行なわれるイベントに参加している。個人がお参りに出かけたり、散歩したりしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思う場所を聞き取り、予め計画を立て、職員の勤務を調整して実行している。		家族の協力を得て1泊温泉旅行も実現でき、今後も続けていく。利用者の希望を取り入れて懐かしい人への訪問も計画している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、家族への年賀状は職員と書いている。本人の希望により家族への電話の取次ぎなど、職員が支援している。		年賀状の裏にその年の干支の絵柄に色塗りをされ、貼り付けて出している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間などいつでも尋ねて来ていただける様な配慮をしている。		家族の希望により泊まっていただけよう配慮している。訪問者にはお茶などの接待をしてゆっくと時間を取っていただけるよう配慮している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修を事業所内で受けている。		状態の安定や安全に向けたケアを徹底している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		出て行く気配や行動を職員が見落とさないよう見守りや連係プレーをしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況把握する様働めている。夜間は、2時間ごとに巡視し利用者の様子を確認すると共に、起きられた時には直ぐに対応できるよう居場所を工夫している。		夜間の休憩は居室の物音や全体が見通せるホールのソファで休むなど、24時間の安全に配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らしながら、嚴重に保管すべきもの、管理が必要な物、利用者が使うときに注意が必要な物等に分けている。		利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法の取り決めをしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。		一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐ為の工夫に取り組んでいる。誤嚥のリスクの高い利用者の食事支援や服薬に注意を払っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	行政関係者や消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。	○	今後は、年1回の応急手当や勉強会を実施し、体験・習得できるようにしていきたい。また、夜間時の緊急対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		消火器や避難経路の確保(整理整頓)等の設備点検を定期的に行うと共に、非常用食料・備品を準備している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出により、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしていることを御家族に見てもらったり、具体的に説明をしている。	○	今後も起こり得るリスクについては、個別的に定期的な見直しを行って行きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られたときは、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況により医療受診につなげている。		体調や些細な表情の変化も見逃さないように早期発見に取り組んでいると共に、利用者本人にも聞き取りをしている。職員の申し送り等に報告し、共有し対応に当たっている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている。		薬の処方や容量が変更されたり、本人の状態変化が見られたときは、いつもよりも詳細な記録をとるようにし、看護職員や協力医療機関との連携を図れるようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。散歩、家事活動など身体を動かす機会を適度に設けている。		便秘がちな利用者は毎日バナナ等食べていただいたり、おやつに寒天料理を取り入れるようにしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、能力に応じて職員が見守ったり、支援を行っている。就寝前には義歯の洗浄を行っている。口腔ケアの重要性を全ての職員が事業所内の研修で理解し、技術を身につけている。		一人ひとりの力に応じた歯磨きの支援をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の栄養摂取量や水分量を把握している。一日1000CC以上1500ccを目標に摂取できるよう摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		一人ひとりの嗜好を把握し献立に取り入れながら栄養バランスにも配慮している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症についてマニュアルを作成し、全職員で学習して対策に努めている。利用者及び家族に同意いただき職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。		利用者の手洗いなどの声掛、見守りを行っている。感染症の流行に随時対応している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は毎日漂白し清潔を心掛けている。冷蔵庫も点検掃除し、食材の残りは鮮度や状態を確認し冷凍したりしている。		調理器具等の衛生、安全確認に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関廻りにプランターなど花を植え季節感を演出している。		窓辺の日よけに朝顔、ゴーヤを植え植物の成長を楽しみにしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、焼き魚のにおい、ゆず湯や菖蒲湯、鍋料理や桜餅など五感や季節を意識的に取り入れて工夫をしている。また、窓には朝顔やゴーヤを植え、夏の外気温を調整するように工夫している。		フロアの飾り付けや写真などを貼って、自分の居室の意識を高めている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに椅子やテーブル等を置き、季節の花などで装飾して居心地の良い空間を作っている。	○	廊下に椅子を置き、思い思いに座れるように配慮している。間取りの都合や非常口の配置などで上手く工夫が出来ていないが、今後は外の部分で配慮していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族や本人が座ったり横になったり出来るように配慮している。		家庭と同じように寛げる空間を作っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内温度及びフローアを25度を目安に冷暖房を調整している。外気との温度差がある時は、温度計と利用者の様子を見ながら調節している。		朝顔やゴーヤのつる物の植物を植え、外気温度を斜断するように工夫している。また、癒しの効果も兼ねている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンクや調理台の高さを利用者の使いやすい高さにあわせている。	○	生活環境を利用者の自立を意識した工夫をしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のドアに各自の目印の貼り絵や写真を貼っている。	○	今後は、もっとなじみのものを活かす取り組みをしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設内に設置されている東屋までの散歩や、桜見をして昼食をとったりしている。		建物の空間を利用してテラス風にして、3時のおやつなどに利用している。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム ハートフルの理念を毎日唱和して「その人らしく暮らして行けるように支援していきましょう」を合言葉に日々取り組んでいます。9人の御利用者には地域性の違いや、生活歴、それぞれの性格の違いからくる「その人らしさ」を職員全員で考え支援しています。また、個々人の意志や思いを尊重するよう普段から声掛けや希望を聞き生活に張りを持っていただけるように環境を整えたり、笑い声が絶えない明るい雰囲気を持続していく生活でありたいと思っております。グループホーム ハートフルは利用者の家族、お友達、ボランティア等気軽に訪問していただけるように心掛けています。地域の方々にも訪問していただきグループホームを理解いただく機会を設けたり、実習生にも実習の場として広く門を開いております。9人の御利用者が「ここにいて、良かった」と思ってもらえるよう職員一同取り組んでいきます。